

シルクロードの国、
ウズベキスタンで

ウズベキスタンについて

皆さんはウズベキスタンという国を知っていますか？何千年もの昔からシルクロードの交通の要衝として人々が行き交い、現在でも建物、伝統工芸、人々の暮らしの中に往時の東西交流の跡を見ることができます。

国土の8割が砂漠に覆われ、非常に乾燥した気候帯にある同国では、旧ソ連時代に氷河を水源とする河川を利用した大規模な農地開発により、土地の塩害のほか、無理な灌漑で河川の水量が大幅に減少した結果、それらが流入するアラル海が急激に縮小するなどの環境問題も抱えています。

ウズベキスタンの森林

こうした乾燥した環境で最も広い

面積を占めるのが、砂漠に生える極めて乾燥と塩分に強い

サクサウルなどの低木からなる疎林です。そのほか東部の山岳地帯では、2000mを超える高地にはジャクシン属の樹林が有りますが、樹高が低く多くは疎林です。標高2000m以下の山腹や丘陵地にはピスタチオやアーモンドの木、ナラ、ニレ、カエデなどが生えますが、放牧や牧草、薪炭材採取により樹木のある場所は極めて限られ、ほとんどの地域は草地、裸地になっています。

2022年からは、大統領のイニシアティブにより5年間で全国に10億本の木を植え、また乾燥が進むアラル海地域において260万ヘクタールの緑化を行うという目標達成に向け大々的な植林・緑化活動が進められています。ただ乾燥や塩害などウズベキスタンの



ウズベキスタン林野庁 森林政策アドバイザー
JICA 専門家 武田祐介



写真2 標高が高い地域の森林



写真1 青の都と呼ばれるサマルカンドの神学校跡



写真4 ピ스타チオ・アーモンド林の調査



写真5 貝殻が散らばる旧アラル海底の植林作業

厳しい環境の中で緑化を成功させるのは簡単なことではなく、植林の成果が実るには課題も少なくないと思っています。

ウズベキスタンでの業務

私は令和4年（2022年）1月からウズベキスタン国家森林委員会（組織改革により今年からエコロジー・環境保護・気候変動省の林野庁）にJICAの森林政策アドバイザーとして派遣されています。日本から森林関係で派遣された専門家は私が初めてなので、各地に出張してウズベキスタンの森林、森林管理や政策を把握しながら森林政策へのアドバイスや、日本や他国のプロジェクトとの連携支援などを行っています。

具体的には、ウズベキスタン林野庁の開催する国際ワークショップで日本の砂漠化防止の取り組みなどを発表、JICA養蚕プロジェクトと協力して、蚕糸研究所や森林科学研究所職員等に対して日本独特の桑の接木技術の研修を実施、JICAビジネス開発プロジェクトから依頼を受けて、日本の製薬会社にウズベキスタン林野庁の薬用植物生産センターについて説明、紹介するなどの業務を行ってきました。

ウズベキスタンの「森林」のために

「森林」という言葉は同じでも、砂漠に森林があったり、ウズベキスタン林野庁地方組織の主な収入源が牧畜や養蜂、薬草の販売であるこの国で、この国の「森林」のために何が必要かを考えながら業務に取り組んでいます。



写真5 森林科学研究所での桑の接木研修

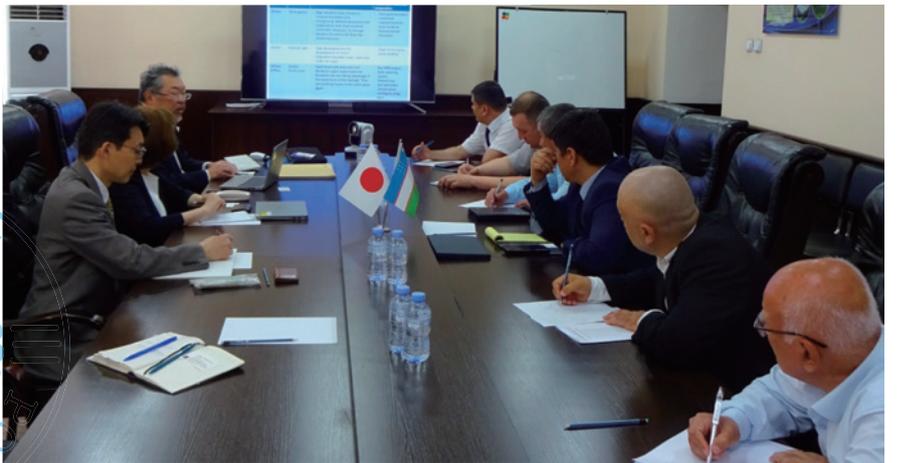


写真6 ウズベキスタン林野庁での会議

